

分科会 18

精神科医療の長期入院を斬る！

コーディネーター：梁田英麿（東北福祉大学せんだんホスピタル S-ACT）

コメンテーター：高木俊介（たかぎクリニック）

出演者：エミさん（長期入院から解放された当事者）

水越珠実（町にくらす会 KUINA）

廣瀬聡子（町にくらす会 KUINA）

大友智美（町にくらす会 KUINA）

砂押美智子（町にくらす会 KUINA）

笠原陽子（東北福祉大学せんだんホスピタル S-ACT）

長期入院の解消なくしてリカバリーを語ることはできません。ACT（包括型地域生活プログラム）だって、リカバリー＝「重い精神障害をもつ人が希望をもち、人生を楽しむことができること！」を応援するのであれば、長期入院の解消の「見える化」にしっかりと取り組まなければならないと思っています。

この分科会はシンポジウム形式で進行し、前半のACTの実践報告や当事者の発表を切り口として、後半は質疑応答も含め精神科医療の長期入院の現状や課題などについて参加者の皆さんと意見交換をしました。

●報告・発表内容

- ①コーディネーターより、分科会の趣旨説明のほか、2020年度までに長期入院患者を2.8万人～3.9万人削減するという国の目標や長期入院の実態、権利擁護などについて。
- ②病棟内で問題行動を繰り返し長期入院していたが、S-ACT（病院型ACT）の関わりで退院・地域定着に繋がった事例について。
- ③KUINA（福祉型ACT）による入院中から退院、地域生活に至るまで、家族支援や身体健康支援も含めた包括的支援の実践と、かつ丁寧に関わることの大切さについて。
- ④長期入院から解放され、現在ACTふぁん（診療所＋訪問看護ステーション型ACT）のサポートを受けている当事者の今の気持ちや入院当時の感想などについて。
- ⑤コメンテーターより、実践報告や発表内容を叩き台として、長期入院のことだけでなく、日本の精神科医療の全貌について。

●意見交換

参加者の皆さんからは、時間が足りないほど沢山のご質問やご意見を頂戴しました。

想いの外、基本的なACTの構造や運営方法に関するご質問が多く、ACTについての意見交換が一番多かった印象です。

他にも、退院促進の観点から、相談支援事業所などの福祉と医療との連携の仕方に言及されるご意見だったり、「病院」の中に入り込みにくさを強く感じているという地域側のご意見などもいただきました。

時間的な制約もあり、精神科医療の長期入院の問題に関して深く具体的な議論にまでは至りませんでした。分科会後に、今後もこのような話し合いの場を設けてもらいたいというご要望も頂戴しました。

長期入院の解消に向けて、まずは今後も皆でしっかりと議論できるような場が続くことを願います。

《梁田英麿（東北福祉大学せんだんホスピタル S-ACT）》